

課題番号	個 09-052
------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 21 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 24 年 5 月 30 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 佐 藤 徹

所属・資格 芸術学部・准教授



下記のとおり提出いたします。

1	種 目 <input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。			
2	研究課題 環境型社会対応機器の研究「食糧自給問題を解決する製品のデザイン開発」				
3	研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します） ・研究代表者 ・研究分担者（役割分担）				
4	学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）				
	発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
5	著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）				
	著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
	佐藤 徹	日本大学芸術学部紀要<創作篇>P66～P69 「環境型社会対応機器のデザイン開発」	36号	2012年3月	日本大学芸術学部

※ホームページ等での公開の 可 否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
佐藤 徹	「プロと卵のエコデザイン展 2009」DM, パンフレット	デザインモデルを出展	各1部
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

課題番号	個09-053
------	---------

注：課題番号を記入してください。

平成21年度 学術研究助成金成果物報告書

平成23年4月8日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 立石 弘道



所属・資格 芸術学部・教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input type="radio"/> 一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。
2 研究課題	英米, および日本における「紳士倶楽部」の研究			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担)			
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
立石 弘道 編著	『現代イギリス文学と場所の移動』(全246頁) 「序論・コロニアル/ポストコロニアルの英語圏文学とアイデンティティ」(3-40頁)		平成22年7月	金星堂

※ホームページ等での公開の (可)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は, 理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
書評・立石弘道	「週刊読書人」(2825号) マークス寿子『総崩れのイギリス それでも踏ん張るイギリス人』	平成22年2月	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
『英米, および日本における「紳士倶楽部」の研究』のテーマである紳士倶楽部はピラミッド型社会の上部を構成する。それゆえ社会が大衆化すればするほど倶楽部は衰退する。上記の業績は現在衰退の一途をたどっている英国社会の現状を文学状況(著書)と社会状況(書評)からとらえたものである。倶楽部の研究は各分野へと限りなく越境するものであることの一証左である。			
(その他)			

課題番号	個09-054
------	---------

注：課題番号を記入してください。

平成21年度 学術研究助成金成果物報告書

平成23年 3月 3日

日本大学 総長 殿

氏 名 阿久澤 騰



所属・資格 芸術学部・助手

下記のとおり提出いたします。

1	種 目 <input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。			
2	研究課題 メディアの批判的理解能力に関するファシリテーション実践の研究				
3	研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します） ・研究代表者 ・研究分担者（役割分担）				
4	学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）				
	発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
5	著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）				
	著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
	阿久澤 騰	江古田文学 (304頁～324頁) 連載「文化考現論」(最終回) コミュニケーションにレバレッジをかけるPRの力	71号	平成21年7月31日	江古田文学会発行

※ホームページ等での公開の 可 否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

課題番号	個09-055
------	---------

注：課題番号を記入してください。

平成21年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 4 月 25 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 茅 原 良 平



所属・資格 芸術学部 放送・助教

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。
2 研究課題	放送学科新スタジオにおけるオーディオドラマの制作～ねりまの昔ばなしを題材に			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担)			
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の (☑)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
茅原良平	朗読・ドラマ台本	焼け弁天さま、そばくい地蔵 三枚鱗、照姫伝説 (前編)	各1部 (計4部)
茅原良平	オーディオCD	上記の作品	各1枚 (計4枚)
茅原良平	音声データCD・DVD *サラウンド制作のものについて	CD: 焼け弁天さま、そばくい地蔵 DVD: 照姫伝説 (前編)	各1枚 (計3枚)
茅原良平	試聴発表会告知用掲示物	音で聞く「ねりまのむかしばなし」 場所: 練馬区光が丘なかよし児童館 日時: 2011年4月22日 (金) 16時～	1枚
茅原良平	配布物	おはなし紹介とアンケート	1枚
茅原良平	報告書 (写真付)	試聴発表会開催までの経緯と実施報告	3枚
茅原良平	報道記事	練馬区HP内で掲載された報道記事	1枚
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展) 練馬区内で定期的に「ねりまのむかしばなし」を聞く会が催されており、そのような団体の口承活動とコラボレーションすることで、民話をまた違う形で後世に伝えていくことができ、またそれが練馬区独特のコンテンツにも成り得ると考えられる。			
(その他) 児童館の事業として、非常に好感をもって発表会が取り上げられた。このような音響作品に触れること自体に希少価値があり、子どもの情操教育や想像力を育むことに大きな効果があると喜ばれた。今回の研究を通じて、音響作品の需要と供給の関係がしっかりと見出せた。平素の実習授業において、また将来的な個人、あるいは共同研究において、児童だけでなく幼児や小学校高学年以上を対象とした音声コンテンツの開発にも目を向け、積極的に制作をしていきたい。			

課題番号	個 09-056
------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 21 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 4 月 3 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 大 淵 三 洋



所属・資格 国際関係学部・教授

下記のとおり提出いたします。

1	種 目 <input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。
2	研究課題 トルコのEU加盟問題に関する経済的考察	
3	研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します） ・研究代表者 ・研究分担者（役割分担）	
4	学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）	
	発表者名	学会名
		発表テーマ
		発表年月
5	著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）	
	著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名
	大 淵 三 洋	『国際文化表現研究』／トルコの欧州連合加盟問題に関する若干の考察
	卷・号	年月
	第7号	2011年3月26日
	出版社・発行所	
	国際文化表現学会	

※ホームページ等での公開の 可 否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
			
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

注：課題番号を記入してください。

平成 21 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 3 月 31 日

日本大学 総長 殿

氏 名 佐藤 マサ子



所属・資格 国際関係学部・教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																												
2 研究課題	「今昔物語集」に基づく比較文化史的・文化交流史的研究																															
3 研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）	<ul style="list-style-type: none"> ・研究代表者 ・研究分担者（役割分担） 																															
4 学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																								
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																													
5 著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名／論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Konrad Meisig 編 (共著者 M.Grein, K.Hosaka, L. Ke, K.Meisig, I. Ritzer, M. Sato, M.Stieglegger, Wengoborski)</td> <td>書名『Die Zukunft des Wissens』 所収論文：「Das Erzählmotiv des Schlangenprinzen in der Bildrolle „Buch vom himmlischen jungen Prinzen Ame-waka-hiko“aus dem japanischen Mittelalter」（当共著書には、二つの拙著単著論 文が収録されている。そのうちの一つは、当助成 研究によるマインツ大学での workshop での発表 原稿を基に、発展的に纏めたものである。）</td> <td> </td> <td>2010/8/31</td> <td>Institut für Indologie der Johannes Gutenberg- Universität Mainz/ Mainz</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	Konrad Meisig 編 (共著者 M.Grein, K.Hosaka, L. Ke, K.Meisig, I. Ritzer, M. Sato, M.Stieglegger, Wengoborski)	書名『Die Zukunft des Wissens』 所収論文：「Das Erzählmotiv des Schlangenprinzen in der Bildrolle „Buch vom himmlischen jungen Prinzen Ame-waka-hiko“aus dem japanischen Mittelalter」（当共著書には、二つの拙著単著論 文が収録されている。そのうちの一つは、当助成 研究によるマインツ大学での workshop での発表 原稿を基に、発展的に纏めたものである。）		2010/8/31	Institut für Indologie der Johannes Gutenberg- Universität Mainz/ Mainz																		
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																												
Konrad Meisig 編 (共著者 M.Grein, K.Hosaka, L. Ke, K.Meisig, I. Ritzer, M. Sato, M.Stieglegger, Wengoborski)	書名『Die Zukunft des Wissens』 所収論文：「Das Erzählmotiv des Schlangenprinzen in der Bildrolle „Buch vom himmlischen jungen Prinzen Ame-waka-hiko“aus dem japanischen Mittelalter」（当共著書には、二つの拙著単著論 文が収録されている。そのうちの一つは、当助成 研究によるマインツ大学での workshop での発表 原稿を基に、発展的に纏めたものである。）		2010/8/31	Institut für Indologie der Johannes Gutenberg- Universität Mainz/ Mainz																												

※ホームページ等での公開の (可)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

【別紙様式 8】


課題番号	個09-058
------	---------

注：課題番号を記入してください。

平成21年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23年 3月 31日

日本大学 総長 殿

氏名 吉本隆昭 

所属・資格 国際関係学部 教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。			
2 研究課題	政軍関係論 - ドイツ第三帝国を事例として -				
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担)				
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)					
	発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
	吉本隆昭	国際関係研究/ドイツ第三帝国における政軍関係-1941年・東部戦線の場合-	31巻 第2号	平成23 年2月	国際関係学部 国際関係研究所

※ホームページ等での公開の 否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

注：課題番号を記入してください。

平成21年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 3 月 31 日

日本大学 総長 殿

氏 名 Jason Hollowell所属・資格 国際関係学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。
2 研究課題	Moodle(教育管理ソフト)の開発とFD(ファカルティ・ディベロップメント), SD(スタッフ・ディベロップメント)の促進に関する研究			
3 研究組織(共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> 研究代表者 研究分担者(役割分担) 			
4 学会発表等(要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
Jason Hollowell	日本ムードル協会	Moodle as a CIMS	2011年2月	
5 著書・雑誌論文(著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
Jason Hollowell	Moodle as a Curriculum and Information Management System		2011年1月	Packt Publishing

※ホームページ等での公開の(可)否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は, 理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

課題番号	個 09-060
------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 21 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 4 月 5 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 陳 文 学



所属・資格 国際関係学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	<input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。
2 研究課題	中国経済成長と産業高度化研究			
3 研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）	・研究代表者 ・研究分担者（役割分担）			
4 学会発表等（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
陳 文学	「中日工業進程比較」国際 学術会議（中国開封）	経済増長と地区産業構造変動（中国語）	2010年1月9日	
5 著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）				
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の (可)・ (否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

課題番号	個 09-061
------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 21 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 4 月 8 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 高橋 亮輔



所属・資格 理工学部・助教

下記のとおり提出いたします。

1	種目 <input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。			
2	研究課題 クラスター無作為化比較試験を用いたストレッチングの効果について				
3	研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します） ・研究代表者 高橋 亮輔 ・研究分担者（役割分担）				
4	学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）				
	発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
	高橋 亮輔	日本体力医学会	運動部に所属する中学生を対象としたストレッチングの介入効果について -多施設ランダム化比較パイロット試験-	2010.9	
	高橋 亮輔	日本体育学会	運動部に所属する中学生を対象としたストレッチング認識度、パフォーマンスおよび傷害について-多施設ランダム化比較試験のベースラインデータの比較-	2010.9	
5	著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）				
	著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の 可 否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日

その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)

氏名	提出物	内容	数量

7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)

(知的財産権の取得)

なし

(外部資金の獲得)

なし

(他の研究への発展)

本研究の結果から、スポーツ傷害やコンディショニング向上ための研究を継続して行う。本研究の結果を踏まえ、また、国内外で行われた研究の文献調査・研究も行い、新しい研究デザインのもとに調査を実施する予定である。

(その他)

なし


課題番号	個 09-062
------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 21 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 3 月 31 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 中村正人 
 所属・資格 理工学部 教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																														
2 研究課題	低温での分子衝突と化学反応に関する理論的研究																																	
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担) 																																	
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Masato Nakamura (中村正人) Atsushi Ichimura (市村淳)</td> <td>63rd Annual Gaseous Electronics Conference and 7th Conference and 7th International Conference on Reactive Plasmas</td> <td>Rotational and Vibrational Energy Transfer in Impulsive Ion-Molecule Collisions</td> <td>2010 年 10 月</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	Masato Nakamura (中村正人) Atsushi Ichimura (市村淳)	63rd Annual Gaseous Electronics Conference and 7th Conference and 7th International Conference on Reactive Plasmas	Rotational and Vibrational Energy Transfer in Impulsive Ion-Molecule Collisions	2010 年 10 月																						
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																															
Masato Nakamura (中村正人) Atsushi Ichimura (市村淳)	63rd Annual Gaseous Electronics Conference and 7th Conference and 7th International Conference on Reactive Plasmas	Rotational and Vibrational Energy Transfer in Impulsive Ion-Molecule Collisions	2010 年 10 月																															
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著者名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著者名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																									
著者・執筆者	著者名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																														

※ホームページ等での公開の 可 否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

課題番号	個 09-063
------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 21 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 4 月 8 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 金子 雄 一 郎



所属・資格 理 工 学 部 ・ 准 教 授

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究			注:該当する種目を○で囲んでください。
2 研究課題	公民連携による交通インフラ整備・運営事業のリスク分担と契約のあり方に関する研究			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> 研究代表者 研究分担者 (役割分担) 			
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
佐々木大治・金子雄一郎・島崎敏一	土木学会 第27回建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会	再評価結果に基づく道路事業の遅延に関する一考察	2009年12月	
金子 雄一郎	日本交通学会第69回研究報告会	リスクを考慮したPFI道路事業の成立性に関する分析	2010年10月	
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
金子 雄一郎	交通学研究 2010 年研究年報/事後評価データを用いた PFI 道路事業のリスクの定量化	54 号	2011年3月	日本交通学会

※ホームページ等での公開の (可) 否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

課題番号	個 09-064
------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 21 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 24 年 11 月 29 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 宮本 守



所属・資格 土木研究所 専門研究員

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。																																			
2 研究課題	都市における社会活動・整備が周辺水域に及ぼす影響の定量評価																																				
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担)																																				
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">発表者名</th> <th style="width: 20%;">学会名</th> <th style="width: 40%;">発表テーマ</th> <th style="width: 20%;">発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>宮本 守</td> <td>土木学会年次講演会</td> <td>印旛沼・高崎川流域における出水時の汚濁負荷流出特性に関する数値解析</td> <td>2011年9月</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>		発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	宮本 守	土木学会年次講演会	印旛沼・高崎川流域における出水時の汚濁負荷流出特性に関する数値解析	2011年9月																											
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																		
宮本 守	土木学会年次講演会	印旛沼・高崎川流域における出水時の汚濁負荷流出特性に関する数値解析	2011年9月																																		
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">著者・執筆者</th> <th style="width: 30%;">著書名・雑誌名／論文名</th> <th style="width: 10%;">巻・号</th> <th style="width: 10%;">年月</th> <th style="width: 30%;">出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>宮本 守</td> <td>河川流量観測の新時代／都市二級河川における洪水流量観測と河川計画上の課題</td> <td>1 巻</td> <td>2010年9月</td> <td>水文・水資源学会編集出版委員会</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>		著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	宮本 守	河川流量観測の新時代／都市二級河川における洪水流量観測と河川計画上の課題	1 巻	2010年9月	水文・水資源学会編集出版委員会																									
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																	
宮本 守	河川流量観測の新時代／都市二級河川における洪水流量観測と河川計画上の課題	1 巻	2010年9月	水文・水資源学会編集出版委員会																																	

※ホームページ等での公開の (可) (否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
なし			
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
なし			
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

* 課題番号	個 09-065
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 21 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 3 月 22 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 山 田 雅 一



所属・資格 理 工 学 部 ・ 助 教

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	<input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																								
2 研究課題	地盤材料のせん断剛性の評価方法に関する研究																																											
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・ 研究代表者 ・ 研究分担者 (役割分担)																																											
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>前原一輝, 山田雅一他</td> <td>日本大学理工学部学術講演会</td> <td>ベンダーエレメントによる砂のせん断剛性の評価 その3密度と応力異方性の影響</td> <td>2009年11月</td> </tr> <tr> <td>高津逸美, 山田雅一他</td> <td>日本大学理工学部学術講演会</td> <td>ベンダーエレメントを装着した中空ねじりせん断試験装置の開発</td> <td>2009年11月</td> </tr> <tr> <td>石井卓也, 山田雅一他</td> <td>日本大学理工学部学術講演会</td> <td>構造の低位化を考慮した砂の応力-ひずみ関係</td> <td>2010年11月</td> </tr> <tr> <td>太田宏, 山田雅一他</td> <td>2010年度日本建築学会関東支部研究発表会</td> <td>せん断剛性の低位化を考慮した砂の応力-ひずみ関係</td> <td>2011年3月</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	前原一輝, 山田雅一他	日本大学理工学部学術講演会	ベンダーエレメントによる砂のせん断剛性の評価 その3密度と応力異方性の影響	2009年11月	高津逸美, 山田雅一他	日本大学理工学部学術講演会	ベンダーエレメントを装着した中空ねじりせん断試験装置の開発	2009年11月	石井卓也, 山田雅一他	日本大学理工学部学術講演会	構造の低位化を考慮した砂の応力-ひずみ関係	2010年11月	太田宏, 山田雅一他	2010年度日本建築学会関東支部研究発表会	せん断剛性の低位化を考慮した砂の応力-ひずみ関係	2011年3月																				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																									
前原一輝, 山田雅一他	日本大学理工学部学術講演会	ベンダーエレメントによる砂のせん断剛性の評価 その3密度と応力異方性の影響	2009年11月																																									
高津逸美, 山田雅一他	日本大学理工学部学術講演会	ベンダーエレメントを装着した中空ねじりせん断試験装置の開発	2009年11月																																									
石井卓也, 山田雅一他	日本大学理工学部学術講演会	構造の低位化を考慮した砂の応力-ひずみ関係	2010年11月																																									
太田宏, 山田雅一他	2010年度日本建築学会関東支部研究発表会	せん断剛性の低位化を考慮した砂の応力-ひずみ関係	2011年3月																																									
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																			
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																								

※ホームページ等での公開の (可) / (否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
本研究成果を利用して、砂の応力-ひずみ関係の繰返し挙動に対する構成式を構築した。			
(その他)			

課題番号	09-066
------	--------

注：課題番号を記入してください。

平成21年度 学術研究助成金成果物報告書

平成23年4月15日

日本大学 総長 殿

氏 名 居 駒 知 樹



所属・資格 理工学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1	種 目 <u>一般研究(個人研究)</u> / 一般研究(共同研究) / 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。			
2	研究課題 エアクッション型大型浮体の短波頂波中応答特性に関する基礎的研究				
3	研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します） ・研究代表者 ・研究分担者（役割分担）				
4	学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）				
	発表者名	学会名			
	発表テーマ	発表年月			
	Yuka Kaneko, Tomoki Ikoma, Koichi Masuda, Chang-Kyu Rheem and Hisaaki Maeda	Thechno-Ocean Network	Application of Higher-Order Elements and Numerical Singular Integration in the Analysis of Pressures with the pressure Distribution Method	2010.10	
5	著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）				
	著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の (可) / 否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得) なし			
(外部資金の獲得) なし			
(他の研究への発展) なし			
(その他) 本研究の成果は他の大型研究プロジェクトで利用される洋上浮体構造物性能評価技術として、役立っている。			

課題番号	個 09-067
------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 21 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 3 月 22 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 富永 茂
 所属・資格 理工学部・助教



下記のとおり提出いたします。

1	種 目 <input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。			
2	研究課題 ドライバの「認知・予測・決断」の働きを表現する視線行動の計算モデルの作成				
3	研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します） ・研究代表者 ・研究分担者（役割分担）				
4	学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）				
	発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
	長谷川隆之, 富永茂, 岡野道治	日本機械学会 第23回パイオエンジニアリング講演会	ドライバの視線行動による危険状態の評価	2011年1月8日	
	富永茂, 伊藤仁樹, 岡野道治, 西本哲也	15 th International Conference Road Safety on Four Continents	Analysis of Risk Factors for Rear-end Collision by using Drive-recorder Data	2010年3月29日	
5	著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）				
	著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
	なし				

※ホームページ等での公開の (可) 否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
なし			
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
なし			
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得) なし			
(外部資金の獲得) なし			
(他の研究への発展) 本研究の発展として、自動車技術会主催の学生安全技術デザインコンペティション日本地域決勝大会で発表し、優秀賞を受賞した。(参考資料を添付)			
(その他) なし			

【別紙様式 8】

課題番号	個09-068
------	---------

注：課題番号を記入してください。

平成21年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23年 3月 23日

日本大学 総長 殿

氏 名 畑河内 秀樹



所属・資格 理工学部 助手

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。			
2 研究課題	静電マイクロアクチュエータの試作研究				
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担)				
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)					
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月		
畑河内 秀樹	日本大学理工学部学術講演会	静電マイクロアクチュエータの試作研究	平成22年11月		
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の (可)・ (否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

課題番号	個 09-069
------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 21 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 4 月 4 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 高橋 賢一



所属・資格 航空宇宙工学科 助手

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																			
2 研究課題	推進薬の燃焼ガス中における着火・燃焼した固体粒子の周囲の流れ場に関する研究																																						
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担)																																						
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高橋 賢一</td> <td>46th AIAA Joint Propulsion Conference & Exhibit</td> <td>Hot Gas Flow around Burning Aluminum Particles near Burning Surface of AP Composite Propellant</td> <td>2010.7</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	高橋 賢一	46th AIAA Joint Propulsion Conference & Exhibit	Hot Gas Flow around Burning Aluminum Particles near Burning Surface of AP Composite Propellant	2010.7																											
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																				
高橋 賢一	46th AIAA Joint Propulsion Conference & Exhibit	Hot Gas Flow around Burning Aluminum Particles near Burning Surface of AP Composite Propellant	2010.7																																				
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																														
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																			

※ホームページ等での公開の (可・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は, 理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			


課題番号	個 09-070
------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 21 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 4 月 15 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 尾崎 亮介 
 所属・資格 理 工 学 部 ・ 助 手

下記のとおり提出いたします。

1	種 目	<input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。
2	研究課題	フォトリソグラフィ構造の電磁波散乱及び伝搬解析に関する研究	
3	研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究代表者 ・ 研究分担者（役割分担） 	
4	学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）		
	発表者名	学会名	発表テーマ
	尾崎, 山崎, 日向	電子情報通信学会ソサイエティ大会	多層誘電体グレーティングによる電磁波の散乱-中間層に方形誘電体を持つ場合-
	尾崎, 山崎, 日向	電気学会電磁界理論研究会	中間層に欠陥構造を持つ多層誘電体グレーティングによる電磁波の散乱
	尾崎, 山崎, 日向	電子情報通信学会総合大会	中空層領域を持つ誘電体導波路の伝搬特性
5	著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）		
	著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号
			年月
			出版社・発行所

※ホームページ等での公開の 可 否） いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

【別紙様式 8】


課題番号	個 09-071
------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 21 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 4 月 15 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 望月 寛 

所属・資格 理 工 学 部 ・ 専 任 講 師

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	<input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																			
2 研究課題	系再構成機能を実現するインターフェースボードの開発																																						
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担) 																																						
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>武田 裕太</td> <td>日本大学理工学部学術講演会</td> <td>系再構成機能を実現する分散システムの構成方法に関する一検討</td> <td>2010年11月</td> </tr> <tr> <td>武田 裕太</td> <td>電子情報通信学会</td> <td>系再構成機能を実現する分散制御システムの構成と実装</td> <td>2010年12月</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	武田 裕太	日本大学理工学部学術講演会	系再構成機能を実現する分散システムの構成方法に関する一検討	2010年11月	武田 裕太	電子情報通信学会	系再構成機能を実現する分散制御システムの構成と実装	2010年12月																							
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																				
武田 裕太	日本大学理工学部学術講演会	系再構成機能を実現する分散システムの構成方法に関する一検討	2010年11月																																				
武田 裕太	電子情報通信学会	系再構成機能を実現する分散制御システムの構成と実装	2010年12月																																				
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																														
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																			

※ホームページ等での公開の 可 否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 2010年12月に開催された Embedded Technology 2010 (組込み総合技術展) の産学連携推進パビリオンで研究成果を発表。 			

注：課題番号を記入してください。

平成 21 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 3 月 24 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 青山 忠

所属・資格 理工学部・専任講師



下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																			
2 研究課題	担持試薬を用いた新規合成プロセスによるベンゾチオフェン類の高効率合成																																						
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> 研究代表者 研究分担者 (役割分担) 																																						
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○青山忠・中岡恭平・滝戸俊夫・小泊満生・橋元親夫</td> <td>2010年 日本化学会西日本大会</td> <td>酸・塩基担持試薬存在下ジケトン類およびアリールチオアセテート類からのアリールチオフェン類の合成</td> <td>2010年11月</td> </tr> <tr> <td>Tadashi Aoyama, Kyohei Nakaoka, Toshio Takido Mitsuo Kodomari</td> <td>24th International Symposium on the Organic Chemistry of Sulfur</td> <td>ONE-POT SYNTHESIS OF ARYLTHIOPHENES FROM α-CHLORO-β-DIKETONES AND ARYLTHIOACETATES BY PARALLEL REACTIONS UNDER COEXISTENCE OF ACID AND BESE-CATALYST</td> <td>2010年7月</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	○青山忠・中岡恭平・滝戸俊夫・小泊満生・橋元親夫	2010年 日本化学会西日本大会	酸・塩基担持試薬存在下ジケトン類およびアリールチオアセテート類からのアリールチオフェン類の合成	2010年11月	Tadashi Aoyama, Kyohei Nakaoka, Toshio Takido Mitsuo Kodomari	24 th International Symposium on the Organic Chemistry of Sulfur	ONE-POT SYNTHESIS OF ARYLTHIOPHENES FROM α -CHLORO- β -DIKETONES AND ARYLTHIOACETATES BY PARALLEL REACTIONS UNDER COEXISTENCE OF ACID AND BESE-CATALYST	2010年7月																							
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																				
○青山忠・中岡恭平・滝戸俊夫・小泊満生・橋元親夫	2010年 日本化学会西日本大会	酸・塩基担持試薬存在下ジケトン類およびアリールチオアセテート類からのアリールチオフェン類の合成	2010年11月																																				
Tadashi Aoyama, Kyohei Nakaoka, Toshio Takido Mitsuo Kodomari	24 th International Symposium on the Organic Chemistry of Sulfur	ONE-POT SYNTHESIS OF ARYLTHIOPHENES FROM α -CHLORO- β -DIKETONES AND ARYLTHIOACETATES BY PARALLEL REACTIONS UNDER COEXISTENCE OF ACID AND BESE-CATALYST	2010年7月																																				
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																														
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																			

※ホームページ等での公開の () 内、いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

課題番号	個 09-074
------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 21 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 4 月 11 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 笠川 良司



所属・資格 理工学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1	種 目 <input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。			
2	研究課題 多様体上の幾何構造を保つ微分同相群と幾何構造の不変量について				
3	研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します） ・研究代表者 ・研究分担者（役割分担）				
4	学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）				
	発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
	笠川 良司	日本大学理工学部 学術講演会	体積を保つ微分同相群の振れ準同型について	2010年11月	
5	著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）				
	著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の (可) / (否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

課題番号	個 09-075
------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 21 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 4 月 15 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 行方 直人



所属・資格 理工学部・助手

下記のとおり提出いたします。

1 種目	一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。		
2 研究課題	パラメトリック下方変換過程励起用高繰り返しパルスレーザー光源の開発			
3 研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究代表者 ・ 研究分担者（役割分担） 			
4 学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
河野太一, 行方直人, 栗村直, 井上修一郎	第 23 回量子情報技術研究会	正弦電圧ゲート動作型 InGaAs/InP APD を用いた偏光量子もつれ配送	2010 年 11 月	
河野太一, 行方直人, 栗村直, 井上修一郎	第 71 回応用物理学会学術講演会	1GHz 正弦電圧ゲート動作型 InGaAs/InP APD を用いた偏光量子もつれ光子対の検出	2010 年 9 月	
5 著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）				
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の (可) 否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
H22 年度戦略的情報通信研究開発推進制度 (SCOPE) 「超伝導光子検出器による量子もつれ波長多重量子暗号通信技術に関する研究」 (101503004)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

注：課題番号を記入してください。

平成21年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 4 月 5 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 豊田陽己



所属・資格 日本大学短期大学部（船橋校舎）専任講師

下記のとおり提出いたします。

1 種目	一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。	
2 研究課題	時空に広がりを持つ粒子の T-duality に関する研究				
3 研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）	<ul style="list-style-type: none"> 研究代表者 研究分担者（役割分担） 				
4 学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）	発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
	豊田陽己	日本物理学会	q-変形された正準理論とコンパクトと空間の粒子	2010/3	
5 著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）	著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
	S. Naka, H. Toyoda, T. Takanashi	Progress of Theoretical Physics/ A Dynamical System with q-Deformed Phase Space Represented in Ordinary Variable Spaces	124・6	2010/12	基礎物理学研究所

※ホームページ等での公開の (可) 否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

課題番号	個 09-077
------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 21 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 4 月 8 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 大貫 進一郎



所属・資格 理工学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1	種目 <u>一般研究(個人研究)</u> / 一般研究(共同研究) / 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。			
2	研究課題 スペースネットワーク構築に向けた大規模電磁界解析シミュレータの開発				
3	研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します） ・研究代表者 ・研究分担者（役割分担）				
4	学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）				
	発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
	大貫 進一郎, 北岡 優弥, 岩松 寛	電気学会	数値逆ラプラス変換法による電磁波の時間応答解析	2010 年 11 月	
	平野 正樹, 大貫 進一郎	電気学会	Cell/B.E.によるモーメント法のデータ並列計算化手法	2010 年 7 月	
	大貫 進一郎, 岸本 誠也	電気学会	高速多重極法による三次元電磁波散乱解析－計算精度の予測と制御－	2010 年 5 月	
	大貫 進一郎, 岸本 誠也	電気学会	曲面パッチを用いた三次元サーフェスモデルの電磁波散乱解析	2009 年 11 月	
	平野 正樹, 大貫 進一郎	電子情報通信学会	ヘテロジニアス CPU による三次元電磁波散乱解析	2011 年 3 月	
	岸本 誠也, 大貫 進一郎	電子情報通信学会	MLFMA によるランダム粗面の電磁波散乱解析－レーダ断面積における計算精度の予測と制御－	2010 年 3 月	
	他 45 件				
5	著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）				
	著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
	S. Ohnuki and Y. Kitaoka	IEICE Trans. Electron. / Analysis of Transient Electromagnetic Scattering from Two-Dimensional Open-Ended Structures by Numerical Inversion of Laplace Transform	vol.E94-C, no.1	2011 年 1 月	IEICE
	S. Ohnuki, R. Ohsawa, and T. Yamasaki,	IEICE Trans. Electron / Electromagnetic Scattering from Rectangular Cylinders with Various Wedge Cavities and Bumps,	vol.E93-C, no. 1	2010 年 1 月	IEICE
	S. Ohnuki, Y. Kitaoka, T. Okada, and S. Kishimoto	Proceeding of 2010 URSI International Symposium on Electromagnetic Theory / Time-Domain Solver for Electromagnetic Computation by Fast Inversion of Laplace Transform	978-1-4244-5154-8	2010 年 8 月	IEEE
	S. Ohnuki, T. Okada, Y. Kitaoka, Y. Ashizawa, and K. Nakagawa	Proceeding of IEEE International Symposium on Antennas and Propagation and CNC/USNC/URSI Radio Science Meeting / Transient Analysis of Plasmon Modes in Metallic Nanoparticles Using Numerical Inversion of Laplace Transform	978-1-4244-4968-2	2010 年 7 月	IEEE
	S. Ohnuki, Y. Kitaoka, and S. Kishimoto	Proceeding of 2010 Asia-Pacific Symposium on Electromagnetic Compatibility / Analysis of Transient Electromagnetic Scattering from Arbitrary Objects	978-1-4244-5623-9	2010 年 4 月	IEEE
	Y. Kitaoka and S. Ohnuki	Proceeding of 2009 International Symposium on Antennas and Propagation / Analysis of Electromagnetic Scattering Responses in Time Domain for Conducting Cylinders with Apertures	TF2-2,978-974-235-465-7	2009 年 10 月	IEICE
	他 2 件				

※ホームページ等での公開の(可)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

[成果物 8-2]

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
該当なし			
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
該当なし			
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
<p>(知的財産権の取得)</p> <p>中川活二, 芦澤好人, 大貫進一郎, 伊藤彰義, 塚本新, "情報記録ヘッド、情報記録装置、情報記録方法及び光デバイス" 特願 2010-161996.</p> <p>(外部資金の獲得)</p> <p>1. 大貫進一郎, 中川活二, 伊藤彰義, 塚本新, 芦澤好人, "ナノアンテナ励起局所的円偏光を用いた次世代超高速光直接記録への挑戦", 2010-2012 年度科学研究費補助金基盤研究 (C) (一般) .</p> <p>2. 大貫進一郎, 中川活二 "複素周波数領域積分方程式法を用いた超高速 電磁界解析による局所的円偏光励起ナノアンテナの最適化設計", カシオ科学振興財団.</p> <p>3. 大月穰, 茶園茂, 羽柴秀臣, 大貫進一郎, "分子回転子の構築とその制御", 科学研究費補助金, 平成 22 年度新学術領域研究 (公募研究) .</p> <p>(他の研究への発展)</p> <p>本研究で開発した解析コードをナノスケールの電磁界に応用し, 下記の研究へ発展している。</p> <p>1. 複素周波数領域の積分方程式法による表面プラズモンの解析 計算精度の保証が可能な複素周波数領域の積分方程式法を用いて, ナノスケール金属粒子における表面プラズモンの解析を行った. 本手法は, 光の波長帯において, 任意形状かつ複数の金属粒子に対して信頼性の高い電磁界解析が行えることを明らかにした. 金属粒子のモデリングについての検討も行き, 表面形状が滑らかな場合, 従来より用いられる三角パッチに比べ, 曲面パッチを用いることで計算コストを半分程度に低減できることを明らかにした. 金属粒子の形状に対する固有モード解析では, 従来法である FDTD 法に比べ, 最大で数百倍程度の高速化が実現できることを明らかにした. また, 超高速並列プロセッサ Cell/B.E.に対応した解析コードを開発し, 積分方程式法を用いた 3 次元のフルベクトル解析では, 汎用の CPU に比べて 20 倍程度の高速化を実現した.</p> <p>2. 光直接記録に向けたナノスケールアンテナの設計 現行の磁気記録速度の 100,000 倍を達成できる光誘起磁化反転において高密度化を実現するため, 局所的な円偏光を高効率に生成できるナノスケールアンテナを設計した. 円偏光を生成するアンテナは 2 組のダイポールアンテナから構成され, それぞれのアンテナに誘起される表面プラズモンの位相が 90 度ずれるようにアンテナ長を選択した. 電磁界シミュレーションにより, 直線偏光を入射した場合, 中央部のギャップにおいてナノメートルオーダーの局所的な円偏光が生成できること, 入射方向を変えることで右回りと左回りの円偏光を制御できること, 磁気記録媒体中においても局所的な円偏光が生成できることを明らかにした.</p> <p>(その他)</p> <p>関連の研究を行った研究室所属の学生が下記の賞を受賞</p> <p>1. 岡田辰一郎, 電子情報通信学会東京支部学生奨励賞受賞 2. 望月崇久, 電子情報通信学会平成 20 年度電磁界理論研究会学生優秀発表賞受賞 3. 岸本誠也, 電子情報通信学会平成 21 年度電磁界理論研究会学生優秀発表賞受賞 4. 北岡優弥, 電子情報通信学会平成 22 年度電磁界理論研究会学生優秀発表賞受賞 5. 平野正樹, 電子情報通信学会平成 22 年度電磁界理論研究会学生優秀発表賞受賞</p>			

* 課題番号	個 09-078
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 21 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 3 月 18 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 木原 雅巳



所属・資格 理工学部・教授

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	<input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。
2 研究課題	コンテンツ配信サービスにおける著作権保護および著作物流通技術			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)				
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
海寶, 木原, 小野	2009年電子通信情報学会ソサエティ大会	著作権管理機能を持つコンテンツ配信サービスにおけるユーザ登録方法	2009年9月	
真新, 木原, 小野	2009年電子通信情報学会ソサエティ大会	動画配信サービスにおけるコンテンツ個別化手法	2009年9月	
木原, 海寶, 小野	アートドキュメンテーション学会第2回秋季研究発表会	アーカイブのウェブネットワークアクセスにおける個人認証と著作権管理	2009年10月	
土屋, 星野, 木原	2011年電子通信情報学会総合大会	インターネットアクセスにおける伝送遅延を用いた携帯電話とPCの識別方法	2011年3月	
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の 可・ 否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
<p>(知的財産権の取得)</p> <p>名称：会員登録システム及び会員登録方法 特許番号：特許第 4586206 号 出願日：2010 - 01 - 8</p> <p>(外部資金の獲得)</p> <p>なし</p> <p>(他の研究への発展)</p> <p>(その他)</p>			

課題番号	個 09-079
------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成21年度 学術研究助成金成果物報告書

平成25年2月28日

日本大学 総長 殿

氏 名 出井 裕



所属・資格 理工学部 ・ 教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																			
2 研究課題	Ti 基連続繊維強化複合材料の高強度化・高品質化																																						
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担)																																						
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																															
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																				
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>出井 裕</td> <td>材料の科学と工学「放電プラズマ焼結法で作製した SCS-6/β 21S チタニウム合金の強度特性」</td> <td>Vol. 50、 No. 1</td> <td>2013年2月</td> <td>日本材料科学会</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	出井 裕	材料の科学と工学「放電プラズマ焼結法で作製した SCS-6/ β 21S チタニウム合金の強度特性」	Vol. 50、 No. 1	2013年2月	日本材料科学会																									
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																			
出井 裕	材料の科学と工学「放電プラズマ焼結法で作製した SCS-6/ β 21S チタニウム合金の強度特性」	Vol. 50、 No. 1	2013年2月	日本材料科学会																																			

※ホームページ等での公開の (可)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

課題番号	個 09-080
------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 21 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 24 年 1 月 6 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 田 辺 光 昭



所属・資格 理工学部・教授

下記のとおり提出いたします。

1	種 目 <input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。			
2	研究課題 圧力波と高温反応との干渉現象によるガソリンノック発生モデル化				
3	研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します） ・研究代表者 ・研究分担者（役割分担）				
4	学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）				
	発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
5	著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）				
	著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
	勝俣雅人・田辺光昭ほか	自動車技術会論文集	42巻6号	2011.11	(公)自動車技術会

※ホームページ等での公開の (可)・ (否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
H22年度 スズキ株式会社 委託研究			
H23年度 富士重工業株式会社 委託研究			
(他の研究への発展)			
(その他)			

課題番号	個09-081
------	---------

注：課題番号を記入してください。

平成21年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 22年 4月 15日

日本大学 総長 殿

氏 名 浅井 朋彦



所属・資格 理工学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																			
2 研究課題	極限的高ベータプラズマにおける二流体緩和および衝撃波発生条件の実験的検証																																						
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担)																																						
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>T. Asai et al.</td> <td>20th International Toki Conference (ITC-20)</td> <td>Time evolution of a magnetic structure of the field-reversed configuration in a super-Alfvénic translation process</td> <td>2010年12月</td> </tr> <tr> <td>小森谷勇樹, 松永宏幸, 浅井朋彦, 高橋努, Loren Steinhauer</td> <td>第27回プラズマ・核融合学会年会</td> <td>磁化同軸ガンによるFRCプラズマへの磁気ヘリシティ注入</td> <td>2010年12月</td> </tr> <tr> <td>山口莊輔, 赤川駿介, 田澤仁康, 平山泰行, 藤川雅透, 戸室啓明, 井之脇祐太, 松澤芳樹, 浅井朋彦, 平野洋一, 高橋努</td> <td>第27回プラズマ・核融合学会年会</td> <td>移送磁場反転配位プラズマの放射光計測</td> <td>2010年11月</td> </tr> <tr> <td>T.Ii, K.Gi, T.Umezawa, M.Inomoto, Y.Ono, A.Osaki, H.Matsunaga, T.Asai</td> <td>52nd Annual Meeting of the APS Division of Plasma Physics</td> <td>Merging Formation of Large-Size Field-Reversed Configurations with the Assistance of Neutral Beam Injection</td> <td>2010年11月</td> </tr> <tr> <td>松澤芳樹, 赤川駿介, 関谷修平, 小森谷勇樹, 平山泰行, 田澤仁康, 藤川雅透, 浅井朋彦, 平野洋一, 高橋努</td> <td>第8回核融合エネルギー連合講演会</td> <td>分光計測による磁場反転配位プラズマにおける中性粒子の計測</td> <td>2010年6月</td> </tr> <tr> <td>藤川雅透, 小森谷勇樹, 平山泰行, 赤川駿介, 浅井朋彦, 高橋努, 松澤芳樹, 高橋俊樹, L.C. Steinhauer</td> <td>第8回核融合エネルギー連合講演会</td> <td>FRCのセパトトリックス近傍におけるトロイダル流速分布</td> <td>2010年6月</td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	T. Asai et al.	20th International Toki Conference (ITC-20)	Time evolution of a magnetic structure of the field-reversed configuration in a super-Alfvénic translation process	2010年12月	小森谷勇樹, 松永宏幸, 浅井朋彦, 高橋努, Loren Steinhauer	第27回プラズマ・核融合学会年会	磁化同軸ガンによるFRCプラズマへの磁気ヘリシティ注入	2010年12月	山口莊輔, 赤川駿介, 田澤仁康, 平山泰行, 藤川雅透, 戸室啓明, 井之脇祐太, 松澤芳樹, 浅井朋彦, 平野洋一, 高橋努	第27回プラズマ・核融合学会年会	移送磁場反転配位プラズマの放射光計測	2010年11月	T.Ii, K.Gi, T.Umezawa, M.Inomoto, Y.Ono, A.Osaki, H.Matsunaga, T.Asai	52nd Annual Meeting of the APS Division of Plasma Physics	Merging Formation of Large-Size Field-Reversed Configurations with the Assistance of Neutral Beam Injection	2010年11月	松澤芳樹, 赤川駿介, 関谷修平, 小森谷勇樹, 平山泰行, 田澤仁康, 藤川雅透, 浅井朋彦, 平野洋一, 高橋努	第8回核融合エネルギー連合講演会	分光計測による磁場反転配位プラズマにおける中性粒子の計測	2010年6月	藤川雅透, 小森谷勇樹, 平山泰行, 赤川駿介, 浅井朋彦, 高橋努, 松澤芳樹, 高橋俊樹, L.C. Steinhauer	第8回核融合エネルギー連合講演会	FRCのセパトトリックス近傍におけるトロイダル流速分布	2010年6月							
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																				
T. Asai et al.	20th International Toki Conference (ITC-20)	Time evolution of a magnetic structure of the field-reversed configuration in a super-Alfvénic translation process	2010年12月																																				
小森谷勇樹, 松永宏幸, 浅井朋彦, 高橋努, Loren Steinhauer	第27回プラズマ・核融合学会年会	磁化同軸ガンによるFRCプラズマへの磁気ヘリシティ注入	2010年12月																																				
山口莊輔, 赤川駿介, 田澤仁康, 平山泰行, 藤川雅透, 戸室啓明, 井之脇祐太, 松澤芳樹, 浅井朋彦, 平野洋一, 高橋努	第27回プラズマ・核融合学会年会	移送磁場反転配位プラズマの放射光計測	2010年11月																																				
T.Ii, K.Gi, T.Umezawa, M.Inomoto, Y.Ono, A.Osaki, H.Matsunaga, T.Asai	52nd Annual Meeting of the APS Division of Plasma Physics	Merging Formation of Large-Size Field-Reversed Configurations with the Assistance of Neutral Beam Injection	2010年11月																																				
松澤芳樹, 赤川駿介, 関谷修平, 小森谷勇樹, 平山泰行, 田澤仁康, 藤川雅透, 浅井朋彦, 平野洋一, 高橋努	第8回核融合エネルギー連合講演会	分光計測による磁場反転配位プラズマにおける中性粒子の計測	2010年6月																																				
藤川雅透, 小森谷勇樹, 平山泰行, 赤川駿介, 浅井朋彦, 高橋努, 松澤芳樹, 高橋俊樹, L.C. Steinhauer	第8回核融合エネルギー連合講演会	FRCのセパトトリックス近傍におけるトロイダル流速分布	2010年6月																																				
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H. Tomuro, T. Asai et al.</td> <td>Review of Scientific Instruments/Development of a compact tomography camera system using a multianode photomultiplier tube for compact torus experiments</td> <td>81・10</td> <td>2010年10月</td> <td>American Institute of Physics</td> </tr> <tr> <td>T. Asai et al.</td> <td>Review of Scientific Instruments/A compact and continuously driven supersonic plasma and neutral source</td> <td>81・10</td> <td>2010年10月</td> <td>American Institute of Physics</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	H. Tomuro, T. Asai et al.	Review of Scientific Instruments/Development of a compact tomography camera system using a multianode photomultiplier tube for compact torus experiments	81・10	2010年10月	American Institute of Physics	T. Asai et al.	Review of Scientific Instruments/A compact and continuously driven supersonic plasma and neutral source	81・10	2010年10月	American Institute of Physics																				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																			
H. Tomuro, T. Asai et al.	Review of Scientific Instruments/Development of a compact tomography camera system using a multianode photomultiplier tube for compact torus experiments	81・10	2010年10月	American Institute of Physics																																			
T. Asai et al.	Review of Scientific Instruments/A compact and continuously driven supersonic plasma and neutral source	81・10	2010年10月	American Institute of Physics																																			

※ホームページ等での公開の 可 否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

課題番号	個 09-082
------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 21 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 4 月 12 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 久保田 正広



所属・資格 生産工学部・教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																			
2 研究課題	粉末冶金法による高機能性生体材料の開発																																						
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担)																																						
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大野卓哉, 久保田正広</td> <td>(社)日本塑性加工学会</td> <td>メカニカルミリング処理中の大気を利用した高強度純チタンの特性</td> <td>平成 22 年 5 月 30 日</td> </tr> <tr> <td>大野卓哉, 久保田正広</td> <td>(社)日本塑性加工学会</td> <td>MA-SPS プロセスを利用した Ti-HAp 複合材料の創製</td> <td>平成 22 年 10 月 16 日</td> </tr> <tr> <td>大野卓哉, 久保田正広</td> <td>(社)軽金属学会</td> <td>メカニカルアロイング法と放電プラズマ焼結法で作製した Ti-HAp 複合材料の特性</td> <td>平成 22 年 11 月 13 日</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	大野卓哉, 久保田正広	(社)日本塑性加工学会	メカニカルミリング処理中の大気を利用した高強度純チタンの特性	平成 22 年 5 月 30 日	大野卓哉, 久保田正広	(社)日本塑性加工学会	MA-SPS プロセスを利用した Ti-HAp 複合材料の創製	平成 22 年 10 月 16 日	大野卓哉, 久保田正広	(社)軽金属学会	メカニカルアロイング法と放電プラズマ焼結法で作製した Ti-HAp 複合材料の特性	平成 22 年 11 月 13 日																			
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																				
大野卓哉, 久保田正広	(社)日本塑性加工学会	メカニカルミリング処理中の大気を利用した高強度純チタンの特性	平成 22 年 5 月 30 日																																				
大野卓哉, 久保田正広	(社)日本塑性加工学会	MA-SPS プロセスを利用した Ti-HAp 複合材料の創製	平成 22 年 10 月 16 日																																				
大野卓哉, 久保田正広	(社)軽金属学会	メカニカルアロイング法と放電プラズマ焼結法で作製した Ti-HAp 複合材料の特性	平成 22 年 11 月 13 日																																				
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大野卓哉, 久保田正広</td> <td>軽金属 / 純チタンの硬さおよび構成相に及ぼすメカニカルミリング雰囲気の影響</td> <td>60・12</td> <td>平成 22 年 12 月</td> <td>(社) 軽金属学会</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	大野卓哉, 久保田正広	軽金属 / 純チタンの硬さおよび構成相に及ぼすメカニカルミリング雰囲気の影響	60・12	平成 22 年 12 月	(社) 軽金属学会																									
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																			
大野卓哉, 久保田正広	軽金属 / 純チタンの硬さおよび構成相に及ぼすメカニカルミリング雰囲気の影響	60・12	平成 22 年 12 月	(社) 軽金属学会																																			

※ホームページ等での公開の (可)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は, 理由書を添付して下さい。

6 その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日

その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)

氏名	提出物	内容	数量

7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)

(知的財産権の取得)

特許出願：高強度・生体親和性に優れるチタン-ハイドロキシアパタイト複合材料，
特願2010-227203，特許庁，2010年10月

(外部資金の獲得)

本研究をスタートした同年度，科学研究費補助金 (基盤研究 (C) 課題番号 21560756) を受領しており，平成 23 年度に研究が終了する予定である。今後，さらに科研費の申請を予定している。

(他の研究への発展)

本研究を通して多くの知見が得られており，粉末冶金法を用いたチタン系生体材料の創製を継続中である。

(その他)

- 大野拓哉 (院生)：平成 22 年 11 月 13 日，(社) 軽金属学会第 119 回秋期大会 優秀ポスター発表賞
- 大野拓哉 (院生)：平成 23 年 2 月 13 日，(社) 軽金属学会 平成 22 年度軽金属希望の星賞
- 大野拓哉 (院生)：平成 23 年 3 月 25 日，(社) 日本機械学会 三浦賞

注：課題番号を記入してください。

平成 21 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 4 月 13 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 霜山竜一

所属・資格 生産工学部・教授



下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																								
2 研究課題	位相差スペクトルイメージによる音源の3次元位置検出																																											
3 研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）	<ul style="list-style-type: none"> 研究代表者 研究分担者（役割分担） 																																											
4 学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>霜山竜一</td> <td>2010年電子情報通信学会総合大会</td> <td>位相差スペクトル分布による音源の2次元位置推定</td> <td>平成22年3月19日</td> </tr> <tr> <td>R. Shimoyama</td> <td>7th EUROSIM 2010</td> <td>2D Position Identification of a Sound Source Using Phase difference Spectrum</td> <td>Sep. 9, 2010</td> </tr> <tr> <td>霜山竜一</td> <td>生産工学部学術講演会</td> <td>位相差スペクトルイメージによる1音源の2次元位置推定</td> <td>平成22年12月4日</td> </tr> <tr> <td>霜山竜一</td> <td>2011年電子情報通信学会</td> <td>位相差スペクトルによるヘッドトルソを用いた音源の方向推定</td> <td>平成23年3月15日</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	霜山竜一	2010年電子情報通信学会総合大会	位相差スペクトル分布による音源の2次元位置推定	平成22年3月19日	R. Shimoyama	7 th EUROSIM 2010	2D Position Identification of a Sound Source Using Phase difference Spectrum	Sep. 9, 2010	霜山竜一	生産工学部学術講演会	位相差スペクトルイメージによる1音源の2次元位置推定	平成22年12月4日	霜山竜一	2011年電子情報通信学会	位相差スペクトルによるヘッドトルソを用いた音源の方向推定	平成23年3月15日																				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																									
霜山竜一	2010年電子情報通信学会総合大会	位相差スペクトル分布による音源の2次元位置推定	平成22年3月19日																																									
R. Shimoyama	7 th EUROSIM 2010	2D Position Identification of a Sound Source Using Phase difference Spectrum	Sep. 9, 2010																																									
霜山竜一	生産工学部学術講演会	位相差スペクトルイメージによる1音源の2次元位置推定	平成22年12月4日																																									
霜山竜一	2011年電子情報通信学会	位相差スペクトルによるヘッドトルソを用いた音源の方向推定	平成23年3月15日																																									
5 著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名／論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																			
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																								

※ホームページ等での公開の（可）否） いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

課題番号	個 09-084
------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 21 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 4 月 7 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 秋 葉 正 一



所属・資格 生産工学部土木工学科・教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																			
2 研究課題	乳化剤を不要とするアスファルト乳剤の簡易製造方法の開発																																						
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担) 																																						
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>千野琢磨, 秋葉正一, 加納陽輔</td> <td>土木学会第 65 回年次学術講演会</td> <td>高温・高圧水を用いたアスファルト抽出試験の検討</td> <td>平成 22 年 9 月 3 日</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	千野琢磨, 秋葉正一, 加納陽輔	土木学会第 65 回年次学術講演会	高温・高圧水を用いたアスファルト抽出試験の検討	平成 22 年 9 月 3 日																											
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																				
千野琢磨, 秋葉正一, 加納陽輔	土木学会第 65 回年次学術講演会	高温・高圧水を用いたアスファルト抽出試験の検討	平成 22 年 9 月 3 日																																				
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名／論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>秋葉正一・加納陽輔</td> <td>土木学会舗装工学論文集／亜臨界水を用いた環境調和型アスファルト抽出試験に関する実験的検討</td> <td>第 15 巻</td> <td>平成 22 年 12 月</td> <td>土木学会</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	秋葉正一・加納陽輔	土木学会舗装工学論文集／亜臨界水を用いた環境調和型アスファルト抽出試験に関する実験的検討	第 15 巻	平成 22 年 12 月	土木学会																									
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																			
秋葉正一・加納陽輔	土木学会舗装工学論文集／亜臨界水を用いた環境調和型アスファルト抽出試験に関する実験的検討	第 15 巻	平成 22 年 12 月	土木学会																																			

※ホームページ等での公開の (可)・ (否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

課題番号	個 09-085
------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 21 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 4 月 15 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名

塩 川 博 義



所属・資格

生産工学部・教授

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	<input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																								
2 研究課題	インドネシア・バリ島のサウンドスケープに関する研究																																											
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担) 																																											
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																									
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名／論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>塩川博義</td> <td>騒音制御/インドネシア・バリ島におけるガムランのうなり</td> <td>35巻1号</td> <td>2011/2</td> <td>日本騒音制御工学会</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	塩川博義	騒音制御/インドネシア・バリ島におけるガムランのうなり	35巻1号	2011/2	日本騒音制御工学会																														
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																								
塩川博義	騒音制御/インドネシア・バリ島におけるガムランのうなり	35巻1号	2011/2	日本騒音制御工学会																																								

※ホームページ等での公開の (可) / (否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

注：課題番号を記入してください。

平成21年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 4 月 7 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 岡 田 昌 樹



所属・資格 生産工学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1 種目	一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。
2 研究課題	放電プラズマ中での炭化水素転換に関する研究			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)				
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
Masaki Okada, Ryousuke Hattori, Yuu Kuwayama, Shigeki Furukawa, and Toshihiko Hiaki	240th ACS International Meeting	Effect of discharge properties on conversion of methane using pulsed DC discharge field	2010年8月	
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の (可)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
<p>(知的財産権の取得) 該当なし</p> <p>(外部資金の獲得) 該当なし</p> <p>(他の研究への発展) 現在, 得られた結果をもとにより制御された放電反応場の構築を思考した研究テーマへと発展させている。</p> <p>(その他) 該当なし</p>			

課題番号	個 09-087
------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 21 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 12 月 21 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 大 澤 絃 一



所属・資格 生産工学部 教授

下記のとおり提出いたします。

1	種目 <input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。
2	研究課題 鉄スクラップの高度リサイクルに関する研究	
3	研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します） ・研究代表者 ・研究分担者（役割分担）	
4	学会発表等（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）	
	発表者名	学会名
	発表テーマ	発表年月
5	著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）	
	著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名
	大澤絃一	日本大学生産工学部研究報告A/ 冷延鋼板のリン酸塩処理性におよぼすトランプエレメントの影響
	卷・号	年月
	第 44 卷 第 2 号	平成 23 年 12 月 20 日
	出版社・発行所	
	日本大学生産工学部	

※ホームページ等での公開の 否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

課題番号	個 09-088
------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 21 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 4 月 14 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 細川 利典



所属・資格 生産工学部 数理工学系 教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。		
2 研究課題	システム L S I の高品質テスト生成に関する研究			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究代表者 ・ 研究分担者 (役割分担) 			
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
Toshinori Hosokawa, Yun Chen, et al.	International Symposium on Communications and Information Technologies	A Test Pattern Matching Method on BAST Architecture Using Don't Care Identification for Random Pattern Resistant Faults	2010 年 10 月 28 日	
陳贇, 細川利典, 吉村正義	電子情報通信学会 DC 研究会	ランダムパターンレジスタント故障検出用ドントケア抽出を用いた BAST アーキテクチャにおけるテストパターンマッチング法	2010 年 6 月 25 日	
湯本仁高, 細川利典, 吉村正義	電子情報通信学会 DC 研究会	遷移故障テスト圧縮指向制御ポイント挿入法	2010 年 2 月 15 日	
若園大洋, 細川利典, 吉村正義	電子情報通信学会 DC 研究会	テスト圧縮指向ドントケア抽出法	2009 年 12 月 4 日	
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の (可)・ (否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
<p>(知的財産権の取得)</p> <p>特になし</p>			
<p>(外部資金の獲得)</p> <p>特になし</p>			
<p>(他の研究への発展)</p> <p>システムLSIの高品質テスト生成に関する研究は、製造テストのためのテストパターンの生成、テスト容易化設計、テストデータ圧縮に関するものであったが、これらの技術を発展させて、システムLSIが組み込まれているデジタル情報機器のフィールドテストに関する研究や製造テスト後に不良品と判定されたシステムLSIの欠陥個所を推定する故障診断技術に発展させ、現在これらの研究に取り組んでいる。電子情報通信学会におけるディペンダブルコンピューティング研究会において発表を行っている。</p>			
<p>(その他)</p> <p>特になし</p>			

課題番号	個09-089
------	---------

【別紙様式 8】

注：課題番号を記入してください。

平成21年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 4 月 10 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 南 澤 宏 明



所属・資格 生産工学部 教養・基礎科学系 教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="checkbox"/> 一般研究(個人研究) / <input type="checkbox"/> 一般研究(共同研究) / <input type="checkbox"/> 総合研究	注：該当する種目を□で囲んでください。																																								
2 研究課題	新規な環境調和型材料による重金属類の濃縮分離に関する研究																																									
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> 研究代表者 研究分担者 (役割分担) 																																									
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>南澤宏明 他</td> <td>第43回日本大学生産工学部学術講演会</td> <td>ポリウレタンフォームを用いた六価クロムの予備濃縮に関する研究</td> <td>2010年12月</td> </tr> <tr> <td>南澤宏明 他</td> <td>第43回日本大学生産工学部学術講演会</td> <td>塩酸処理ポリウレタンフォーム(HCl-PUF)に関する研究</td> <td>2010年12月</td> </tr> <tr> <td>南澤宏明 他</td> <td>PACIFICHEM2010</td> <td>Determination of trace cerium in water samples by ICP-AES after solid phase extraction on chrlating fibrous sorbent</td> <td>2010年12月</td> </tr> <tr> <td>南澤宏明 他</td> <td>分離技術会年会2010</td> <td>キレート繊維を用いる水試料中の微量 Sb および Ce の ICP-AES</td> <td>2010年6月</td> </tr> <tr> <td>南澤宏明 他</td> <td>PITTCON2010</td> <td>Solid Phase Extraction of Chromium(VI) from Aqueous Solutions by Polyuretan Form Treated with Hydrochloric Acid</td> <td>2010年3月</td> </tr> <tr> <td>南澤宏明 他</td> <td>日本化学会第90春季年会</td> <td>廃棄系バイオマスを用いた機能性材料の開発 (リン酸カルシウム誘導体の合成と機能化)</td> <td>2010年3月</td> </tr> <tr> <td>南澤宏明 他</td> <td>第42回日本大学生産工学部学術講演会</td> <td>塩酸処理ポリウレタンフォーム(HCl-PUF)を用いた環境試料中六価クロムの定量に関する研究</td> <td>2009年12月</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	南澤宏明 他	第43回日本大学生産工学部学術講演会	ポリウレタンフォームを用いた六価クロムの予備濃縮に関する研究	2010年12月	南澤宏明 他	第43回日本大学生産工学部学術講演会	塩酸処理ポリウレタンフォーム(HCl-PUF)に関する研究	2010年12月	南澤宏明 他	PACIFICHEM2010	Determination of trace cerium in water samples by ICP-AES after solid phase extraction on chrlating fibrous sorbent	2010年12月	南澤宏明 他	分離技術会年会2010	キレート繊維を用いる水試料中の微量 Sb および Ce の ICP-AES	2010年6月	南澤宏明 他	PITTCON2010	Solid Phase Extraction of Chromium(VI) from Aqueous Solutions by Polyuretan Form Treated with Hydrochloric Acid	2010年3月	南澤宏明 他	日本化学会第90春季年会	廃棄系バイオマスを用いた機能性材料の開発 (リン酸カルシウム誘導体の合成と機能化)	2010年3月	南澤宏明 他	第42回日本大学生産工学部学術講演会	塩酸処理ポリウレタンフォーム(HCl-PUF)を用いた環境試料中六価クロムの定量に関する研究	2009年12月								
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																							
南澤宏明 他	第43回日本大学生産工学部学術講演会	ポリウレタンフォームを用いた六価クロムの予備濃縮に関する研究	2010年12月																																							
南澤宏明 他	第43回日本大学生産工学部学術講演会	塩酸処理ポリウレタンフォーム(HCl-PUF)に関する研究	2010年12月																																							
南澤宏明 他	PACIFICHEM2010	Determination of trace cerium in water samples by ICP-AES after solid phase extraction on chrlating fibrous sorbent	2010年12月																																							
南澤宏明 他	分離技術会年会2010	キレート繊維を用いる水試料中の微量 Sb および Ce の ICP-AES	2010年6月																																							
南澤宏明 他	PITTCON2010	Solid Phase Extraction of Chromium(VI) from Aqueous Solutions by Polyuretan Form Treated with Hydrochloric Acid	2010年3月																																							
南澤宏明 他	日本化学会第90春季年会	廃棄系バイオマスを用いた機能性材料の開発 (リン酸カルシウム誘導体の合成と機能化)	2010年3月																																							
南澤宏明 他	第42回日本大学生産工学部学術講演会	塩酸処理ポリウレタンフォーム(HCl-PUF)を用いた環境試料中六価クロムの定量に関する研究	2009年12月																																							

5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
南澤宏明 他	分析化学／塩酸処理ポリウレタンフォームを用いるクロム(VI)の固相抽出	Vol.59, No.12	2010年 12月	日本分析化学会
南澤宏明 他	日本大学生産工学部研究報告 A(理工系)／キレート繊維 GRY を用いた微量アンチモンの ICP-AES	Vol.43, No.2	2010年 12月	日本大学生産工学部

※ホームページ等での公開の (可)・ (否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

[成果物 8-2]

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

注：課題番号を記入してください。

平成21年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23年 5月 12日

日本大学 総長 殿

氏 名 彭 國 義



所属・資格 工学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="checkbox"/> 一般研究(個人研究) / <input type="checkbox"/> 一般研究(共同研究) / <input type="checkbox"/> 総合研究			注:該当する種目を○で囲んでください。																														
2 研究課題	ウォータージェットによる高速度キャビテーション気泡流の数値解析法の確立																																	
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担) 																																	
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>彭 國義</td> <td>キャビテーションに関するシンポジウム(第15回)</td> <td>圧縮性混合流手法による高速キャビテーション噴流の数値シミュレーション</td> <td>2010.11</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	彭 國義	キャビテーションに関するシンポジウム(第15回)	圧縮性混合流手法による高速キャビテーション噴流の数値シミュレーション	2010.11																						
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																															
彭 國義	キャビテーションに関するシンポジウム(第15回)	圧縮性混合流手法による高速キャビテーション噴流の数値シミュレーション	2010.11																															
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>G. Peng, S. Fujikawa, and S. Shimizu</td> <td>Water Jetting Technology for LOHAS / Numerical Simulation of Turbulent Cavitating Water Jets Issued from a Submerged Orifice Nozzle</td> <td> </td> <td>2009.11</td> <td>Int.Academic Printing Co. Ltd</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	G. Peng, S. Fujikawa, and S. Shimizu	Water Jetting Technology for LOHAS / Numerical Simulation of Turbulent Cavitating Water Jets Issued from a Submerged Orifice Nozzle		2009.11	Int.Academic Printing Co. Ltd																				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																														
G. Peng, S. Fujikawa, and S. Shimizu	Water Jetting Technology for LOHAS / Numerical Simulation of Turbulent Cavitating Water Jets Issued from a Submerged Orifice Nozzle		2009.11	Int.Academic Printing Co. Ltd																														

※ホームページ等での公開の (☑)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得) 科学研究費補助金 (基盤研究 (C) , 22560177) , 平成 22 年度~24 年度			
(他の研究への発展)			
(その他)			

注：課題番号を記入してください。

平成21年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 4 月 18 日

日本大学 総長 殿

氏 名 児玉 大輔

所属・資格 工学部・准教授



下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="checkbox"/> 一般研究(個人研究) / <input type="checkbox"/> 一般研究(共同研究) / <input type="checkbox"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																														
2 研究課題	イオン液体のガス吸収特性の解明と応用																																	
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> 研究代表者 研究分担者 (役割分担) 																																	
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Daisuke Kodama</td> <td>PPEPPD 2010</td> <td>Solubility of Carbon Dioxide in Glymes and Saturated Liquid Density at 313.15 K</td> <td>2010年5月20日</td> </tr> <tr> <td>児玉 大輔</td> <td>分離技術会年会 2010</td> <td>体積可変溶解度測定装置作製とグライム類の二酸化炭素吸収特性</td> <td>2010年6月3日</td> </tr> <tr> <td>児玉 大輔</td> <td>第31回日本熱物性シンポジウム</td> <td>溶解度測定装置作製とグライムのCO2吸収特性</td> <td>2010年11月19日</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	Daisuke Kodama	PPEPPD 2010	Solubility of Carbon Dioxide in Glymes and Saturated Liquid Density at 313.15 K	2010年5月20日	児玉 大輔	分離技術会年会 2010	体積可変溶解度測定装置作製とグライム類の二酸化炭素吸収特性	2010年6月3日	児玉 大輔	第31回日本熱物性シンポジウム	溶解度測定装置作製とグライムのCO2吸収特性	2010年11月19日														
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																															
Daisuke Kodama	PPEPPD 2010	Solubility of Carbon Dioxide in Glymes and Saturated Liquid Density at 313.15 K	2010年5月20日																															
児玉 大輔	分離技術会年会 2010	体積可変溶解度測定装置作製とグライム類の二酸化炭素吸収特性	2010年6月3日																															
児玉 大輔	第31回日本熱物性シンポジウム	溶解度測定装置作製とグライムのCO2吸収特性	2010年11月19日																															
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Daisuke Kodama <i>et al.</i></td> <td>Fluid Phase Equilibria / Density, viscosity, and solubility of carbon dioxide in glymes</td> <td>302・1-2</td> <td>2011年3月</td> <td>Elsevier</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	Daisuke Kodama <i>et al.</i>	Fluid Phase Equilibria / Density, viscosity, and solubility of carbon dioxide in glymes	302・1-2	2011年3月	Elsevier																				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																														
Daisuke Kodama <i>et al.</i>	Fluid Phase Equilibria / Density, viscosity, and solubility of carbon dioxide in glymes	302・1-2	2011年3月	Elsevier																														

※ホームページ等での公開の ()・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ JSPS 平成 22 年度 科学研究費補助金 基盤研究(C) 「イオン液体の温室効果ガス吸収特性解明と応用」 ・ JST 研究成果最適展開支援事業 フィージビリティスタディ【FS】ステージ 探索タイプ 「イオン液体の二酸化炭素吸収特性及び輸送特性の解明」 ・ JSPS 最先端・次世代研究支援開発プログラム 「イオン液体を利用した二酸化炭素物理吸収プロセスの構築」 			
(他の研究への発展)			
(その他)			

課題番号	個09-092
------	---------

注：課題番号を記入してください。

平成21年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 3 月 18 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 岩 田 幸 一



所属・資格 歯 学 部 ・ 教 授

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	<input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注:該当する種目を○で囲んでください。																																
2 研究課題	下歯槽神経損傷後に発症する異常疼痛に対するMAPキナーゼの関与																																			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担)																																			
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																												
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																	
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>M Miyamoto, Y Tsuboi, K Takamiya, R L. Huganir, M Kondo, M Shinoda, Y Oi and K Iwata.</td> <td>Involvement of GluR2 and GluR3 subunit C-termini in the trigeminal spinal subnucleus caudalis and C1-C2 neurons in trigeminal neuropathic pain. Neurosci Lett</td> <td>491 (1)</td> <td>2011年3月</td> <td>Elsevier</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	M Miyamoto, Y Tsuboi, K Takamiya, R L. Huganir, M Kondo, M Shinoda, Y Oi and K Iwata.	Involvement of GluR2 and GluR3 subunit C-termini in the trigeminal spinal subnucleus caudalis and C1-C2 neurons in trigeminal neuropathic pain. Neurosci Lett	491 (1)	2011年3月	Elsevier																						
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																
M Miyamoto, Y Tsuboi, K Takamiya, R L. Huganir, M Kondo, M Shinoda, Y Oi and K Iwata.	Involvement of GluR2 and GluR3 subunit C-termini in the trigeminal spinal subnucleus caudalis and C1-C2 neurons in trigeminal neuropathic pain. Neurosci Lett	491 (1)	2011年3月	Elsevier																																

※ホームページ等での公開の (☑・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は, 理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得) なし			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展) 本研究では下歯槽神経切断モデルラットを用いて、pERK発現に対して活性型アストロサイトが関与することを明らかにした。本研究結果を踏まえて、頸神経モデルを作成し、同様の研究を行い、頸神経切断によって引き起こされる、痛覚過敏に対しても、アストロサイトが関与することが明らかになった。本研究結果は2011発行のMol Pain (IF 4.19)に掲載された。			
(その他)			

課題番号	個09-093
------	---------

注：課題番号を記入してください。

平成21年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23年 4月 1日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 川戸 貴行



所属・資格 歯学部・助教

下記のとおり提出いたします。

1	種目 <input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。			
2	研究課題 骨芽細胞による骨形成と破骨細胞の分化に及ぼす血中コレステロール成分の影響の解明				
3	研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します） ・研究代表者 ・研究分担者（役割分担）				
4	学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）				
	発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
	飯田隆文, 川戸貴行, 他5名	口腔衛生関東地方研究会 総会・学術大会	酪酸は骨芽細胞のシクロオキシゲナーゼ発現とPGE ₂ 産生を促進する。	平成22年3月	
	飯田隆文, 田中秀樹, 他6名	第132回日本歯科保存学会 2010年度春季学術大会	酪酸は骨芽細胞のCOX-1およびCOX-2発現増加を介してPGE ₂ 産生を促進する。	平成22年5月	
	Iida T, Kawato T, 他6名	88th General Session & Exhibition of IADR	Butyric acid induces Coxs and PGE ₂ production in ROS17/2.8 cells.	平成22年6月	
	飯田隆文, 田中秀樹, 他7名	第59回日本口腔衛生学会・総会	酪酸は骨芽細胞の分化を抑制しPGE ₂ 産生を促進する。	平成22年10月	
5	著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）				
	著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
	Iida T, Kawato T, 他6名	Archives of Oral Biology/ Sodium butyrate induces the production of cyclooxygenases and prostaglandin E2 in ROS17/2.8 cells	56巻, 7号, 678-686	2011年2月	Elsevier

※ホームページ等での公開の 可 否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

課題番号	個 09-094
------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 21 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 24 年 12 月 25 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 津田 啓方



所属・資格 歯学部・助教

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																
2 研究課題	歯周病細菌病原因子である酪酸の産生とその調節に関与する遺伝子の同定																																			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担)																																			
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																												
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																	
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Yoshikazu Mikami, Naoto Suzuki, Tomihisa Takahashi, Kichibee Otsuka, <u>Hiromasa Tsuda</u></td> <td>Journal of Pharmacological Sciences Bacitracin Upregulates <i>mbrAB</i> Transcription via <i>mbrCD</i> to Confer Bacitracin Resistance in <i>Streptococcus mutans</i></td> <td>Vol. 117 (2011) No. 3 P 204-207</td> <td>2011 年 10 月</td> <td>The Japanese Pharmacological Society</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	Yoshikazu Mikami, Naoto Suzuki, Tomihisa Takahashi, Kichibee Otsuka, <u>Hiromasa Tsuda</u>	Journal of Pharmacological Sciences Bacitracin Upregulates <i>mbrAB</i> Transcription via <i>mbrCD</i> to Confer Bacitracin Resistance in <i>Streptococcus mutans</i>	Vol. 117 (2011) No. 3 P 204-207	2011 年 10 月	The Japanese Pharmacological Society																						
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																
Yoshikazu Mikami, Naoto Suzuki, Tomihisa Takahashi, Kichibee Otsuka, <u>Hiromasa Tsuda</u>	Journal of Pharmacological Sciences Bacitracin Upregulates <i>mbrAB</i> Transcription via <i>mbrCD</i> to Confer Bacitracin Resistance in <i>Streptococcus mutans</i>	Vol. 117 (2011) No. 3 P 204-207	2011 年 10 月	The Japanese Pharmacological Society																																

※ホームページ等での公開の 可 否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
【文部科学省科学研究費補助金】 若手研究 (B)、津田啓方 (日本大学 歯学部)、 ヒストンアセチル化調節食品成分による歯周炎骨破壊予防法の開発、 4,160 千円 (直接経費 : 3,200 千円, 間接経費 : 960 千円)、 平成 21 年 ~ 22 年度			
(他の研究への発展)			
(その他)			

*課題番号	個09-095
-------	---------

注：課題番号を記入してください。

平成21年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23年 3月 31日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 會田 有希子



所属・資格 歯学部・助教

下記のとおり提出いたします。

1 種目	一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																												
2 研究課題	ヒト正常軟骨細胞の細胞外マトリックス成分の合成に及ぼす IL-17 の影響																															
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> 研究代表者 研究分担者 (役割分担) 																															
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>谷川志保子, 會田有希子 他6名</td> <td>第62回日本大学歯学会総会・学術大会</td> <td>IL-17F は軟骨細胞による軟骨基質タンパク代謝を分解系に傾ける。</td> <td>2010年・5月</td> </tr> <tr> <td>谷川志保子, 會田有希子 他5名</td> <td>19回硬組織再生生物学会学術大会・総会</td> <td>IL-17F は軟骨細胞によるコラゲナーゼおよびストロムライシンの産生を促進する。</td> <td>2010年・9月</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	谷川志保子, 會田有希子 他6名	第62回日本大学歯学会総会・学術大会	IL-17F は軟骨細胞による軟骨基質タンパク代謝を分解系に傾ける。	2010年・5月	谷川志保子, 會田有希子 他5名	19回硬組織再生生物学会学術大会・総会	IL-17F は軟骨細胞によるコラゲナーゼおよびストロムライシンの産生を促進する。	2010年・9月																
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																													
谷川志保子, 會田有希子 他6名	第62回日本大学歯学会総会・学術大会	IL-17F は軟骨細胞による軟骨基質タンパク代謝を分解系に傾ける。	2010年・5月																													
谷川志保子, 會田有希子 他5名	19回硬組織再生生物学会学術大会・総会	IL-17F は軟骨細胞によるコラゲナーゼおよびストロムライシンの産生を促進する。	2010年・9月																													
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S. Tanigawa, Y. Aida, T. Kawato 他6名</td> <td>Cytokine / Interleukin-17F stimulates cartilage degradation by increasing the expression of collagenases and stromelysin-1 and by decreasing the expression of their inhibitors and extracellular matrix components in chondrocytes.</td> <td> </td> <td> </td> <td>投稿中</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	S. Tanigawa, Y. Aida, T. Kawato 他6名	Cytokine / Interleukin-17F stimulates cartilage degradation by increasing the expression of collagenases and stromelysin-1 and by decreasing the expression of their inhibitors and extracellular matrix components in chondrocytes.			投稿中																		
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																												
S. Tanigawa, Y. Aida, T. Kawato 他6名	Cytokine / Interleukin-17F stimulates cartilage degradation by increasing the expression of collagenases and stromelysin-1 and by decreasing the expression of their inhibitors and extracellular matrix components in chondrocytes.			投稿中																												

※ホームページ等での公開の (○)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
なし			
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
なし			
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
なし			
(外部資金の獲得)			
なし			
(他の研究への発展)			
<p>本研究は、軟骨細胞を Interleukin (IL)-17F で刺激することにより、軟骨細胞の動態がどのように変化するのかを細胞および分子生物学的に明らかにすることを目的とした。軟骨細胞には、ヒト正常軟骨細胞を用い、軟骨基質を構成する主な線維成分である type II collagen, 非線維成分の aggrecan core および link protein, 基質の分解とその調節を担う matrix metalloproteinases (MMPs), tissue inhibitor of matrix metalloproteinase (TIMPs), 骨吸収促進因子である prostagrandin E₂ (PGE₂) や律速酵素である cyclooxygenase (COX)-1, 2 の遺伝子発現を real-time PCR 法で、タンパク発現を ELISA 法にて調べた。また、COX-2 の特異的阻害剤である NS398 を刺激し、IL-17F によって増加した PGE₂ の影響を調べた。その結果、IL-17F が MMP-1, -3 および -13 の発現を増加させ、TIMP-2, -4, type II collagen, aggrecan core および link protein の発現を減少させることによって軟骨破壊が促進することが示唆された。また、aggrecan core, link protein, および TIMP-4 が軟骨細胞における PGE₂ のオートクリン作用に関与していることが示唆された。</p> <p>今後は本研究を基に、macrophage colony-stimulating factor や osteoprotegerin などの軟骨・骨破壊とその調節に関与する因子の発現を調べ、軟骨破壊から骨破壊への病態の推移の一端を細胞および分子生物学的に解明する。</p>			
(その他)			
なし			

* 課題番号	個 09-096
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 21 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 2 月 10 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 池田 弘子



所属・資格 歯学部・助教

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲ってください。																									
2 研究課題	口腔ジスキネジア発症におけるドパミン神経機構の解明																												
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担)																												
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																					
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																										
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名／論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Ikeda H, Kotani A, Koshikawa N, Cools AR</td> <td>Neuroscience / Differential role of GABA_A and GABA_B receptors in two distinct output stations of the rat striatum: Studies on the substantia nigra pars reticulata and the globus pallidus.</td> <td>167・1 31-39</td> <td>2010年 4月</td> <td>Elsevier</td> </tr> <tr> <td>Ikeda H, Miyatake M, Koshikawa N, Ochiai K, Yamada K, Kiss A, Donlin MJ, Panneton WM, Churchill JD, Green M, Siddiqui AM, Leinweber AL, Crews NR, Ezerskiy LA, Rendell VR, Belcheva MM, Coscia CJ</td> <td>The Journal of Biological Chemistry / Morphine modulation of thrombospondin levels in astrocytes and its implications for neurite outgrowth and synapse formation.</td> <td>285・49 38415-38427</td> <td>2010年 12月</td> <td>The American Society for Biochemistry and Molecular Biology</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	Ikeda H, Kotani A, Koshikawa N, Cools AR	Neuroscience / Differential role of GABA _A and GABA _B receptors in two distinct output stations of the rat striatum: Studies on the substantia nigra pars reticulata and the globus pallidus.	167・1 31-39	2010年 4月	Elsevier	Ikeda H, Miyatake M, Koshikawa N, Ochiai K, Yamada K, Kiss A, Donlin MJ, Panneton WM, Churchill JD, Green M, Siddiqui AM, Leinweber AL, Crews NR, Ezerskiy LA, Rendell VR, Belcheva MM, Coscia CJ	The Journal of Biological Chemistry / Morphine modulation of thrombospondin levels in astrocytes and its implications for neurite outgrowth and synapse formation.	285・49 38415-38427	2010年 12月	The American Society for Biochemistry and Molecular Biology										
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																									
Ikeda H, Kotani A, Koshikawa N, Cools AR	Neuroscience / Differential role of GABA _A and GABA _B receptors in two distinct output stations of the rat striatum: Studies on the substantia nigra pars reticulata and the globus pallidus.	167・1 31-39	2010年 4月	Elsevier																									
Ikeda H, Miyatake M, Koshikawa N, Ochiai K, Yamada K, Kiss A, Donlin MJ, Panneton WM, Churchill JD, Green M, Siddiqui AM, Leinweber AL, Crews NR, Ezerskiy LA, Rendell VR, Belcheva MM, Coscia CJ	The Journal of Biological Chemistry / Morphine modulation of thrombospondin levels in astrocytes and its implications for neurite outgrowth and synapse formation.	285・49 38415-38427	2010年 12月	The American Society for Biochemistry and Molecular Biology																									

※ホームページ等での公開の (可) (否) いずれかを○で囲ってください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

* 課題番号	個09-097
--------	---------

注：課題番号を記入してください。

平成21年度 学術研究助成金成果物報告書

平成23年3月7日

日本大学 総長 殿

氏 名 坪井 美行 印
 所属・資格 歯学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。
2 研究課題	慢性顎関節痛の神経機構の解明－ATPの関与について－			
3 研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）	・研究代表者 ・研究分担者（役割分担）			
4 学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
坪井 美行	第52回歯科基礎医学会 学術大会	顎関節刺激により誘発される反射性咀嚼筋活動におけるP2X受容体の役割	2010年9月21日	
5 著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）				
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
Watanabe T, Tsuboi Y, Sessle BJ, Iwata K, Hu JW.	Brain Research / P2X and NMDA receptor involvement in temporomandibular joint-evoked reflex activity in rat jaw muscles.	1346	2010年7月	Elsevier

※ホームページ等での公開の（ 否） いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

課題番号	個09-098
------	---------

注：課題番号を記入してください。

平成21年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23年 3月 24日

日本大学 総長 殿

氏名 (太本) 内藤 昌子



所属・資格 歯学部・助手

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注:該当する種目を○で囲んでください。																																			
2 研究課題	Wnt シグナルによる骨芽細胞分化制御機構の解析																																						
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> 研究代表者 研究分担者 (役割分担) 																																						
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>内藤 昌子</td> <td>第52回歯科基礎医学会</td> <td>Dexamethasone (Dex) 誘導性脂肪細胞分化における Wnt/β-catenin シグナルの役割</td> <td>平成22年9月</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	内藤 昌子	第52回歯科基礎医学会	Dexamethasone (Dex) 誘導性脂肪細胞分化における Wnt/ β -catenin シグナルの役割	平成22年9月																											
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																				
内藤 昌子	第52回歯科基礎医学会	Dexamethasone (Dex) 誘導性脂肪細胞分化における Wnt/ β -catenin シグナルの役割	平成22年9月																																				
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																														
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																			

※ホームページ等での公開の (可) / (否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

* 課題番号	個09-099
--------	---------

注：課題番号を記入してください。

平成21年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 3 月 28 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 武 市 収

所属・資格 歯学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1	種 目 <input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。			
2	研究課題 歯根嚢胞中の血管内皮細胞は炎症の遷延と防御を司る				
3	研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します） ・研究代表者 武市 収 ・研究分担者（役割分担）				
4	学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）				
	発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
	Takeichi O, et al.	88 th General Session of The IADR	RAGE-AGE interactions are important in periapical granulomas	July 14-17, 2010	
	Hatori K, Takeichi O, et al.	88 th General Session of The IADR	Midkine is expressed in human periapical granulomas	July 14-17, 2010	
5	著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）				
	著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の 可 否） いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

課題番号	個09-100
------	---------

注：課題番号を記入してください。

平成21年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 24年 1月 10日

日本大学 総長 殿

氏名 大木 秀郎



所属・資格 歯学部・教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																
2 研究課題	T helper I型病変のリンパ節における樹状細胞動態																																			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担)																																			
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																												
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																	
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>NAOYUKIMATSUMOTO, SHOTARO MUKAE, HIDERO OHKI, et al</td> <td>Anticancer Research / Prognostic Value of LYVE-1-Positive Lymphatic Vessel in Tongue Squamous Cell Carcinomas</td> <td>30</td> <td>2010 April</td> <td>Anticancer Research</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	NAOYUKIMATSUMOTO, SHOTARO MUKAE, HIDERO OHKI, et al	Anticancer Research / Prognostic Value of LYVE-1-Positive Lymphatic Vessel in Tongue Squamous Cell Carcinomas	30	2010 April	Anticancer Research																						
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																
NAOYUKIMATSUMOTO, SHOTARO MUKAE, HIDERO OHKI, et al	Anticancer Research / Prognostic Value of LYVE-1-Positive Lymphatic Vessel in Tongue Squamous Cell Carcinomas	30	2010 April	Anticancer Research																																

※ホームページ等での公開の 可 否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			